

## 事業計画書

事業名	寺子屋バイリンズ
実施場所	レンタルスペース POPLY
実施予定期間	※イベントや研修会等の当日だけでなく、準備期間・実績の取りまとめ期間等も含めて記載してください。 令和6年10月1日 ~ 令和7年2月28日

## ◎事業概要

※事業の概要を100~200字で簡潔に記載してください（事業の紹介などで使用します）。

冬休みの期間中、バイリンガル高校生が、外国から移住してきた子供たちのための教室を開き、英語と日本語を使い分けながら、実践的な日本語を教えたり、日本に親しみを持ってもらえるようなリクリエーションを行う。

## ◎目的

※事業を行うきっかけ（地域の問題点や課題、社会背景など）と、その解決のために何をするのかを記載してください。

現在、育成就労制度などのさまざま理由により外国から日本に移住してきた子供達の多くは日本語がうまく喋れなかったり、日本の文化に馴染めない状態にいる。そんな似たような境遇の子供達が集まり交流する場を設け、快適且つ楽しめるようなコミュニティを作ることを目指す。具体的な内容として、日本語と英語を使い分けながら日本語の基礎的な勉強を教えるのはもちろん、日本に親しみを持ってもらえるように、折り紙やアニメ鑑賞等、日本の文化に触れ合えるようなアクティビティを実施する。

## ◎実施内容

日程	実施項目・作業項目
	※イベントや研修会等の行事日程だけでなく、実施内容(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会)、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、事業期間すべてにわたる実施内容を記載してください。 ※ハード部門については、12月31日までに施設整備を終え、その後は施設を活用する計画としてください。
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室の宣伝ポスターを作る</li> <li>・教室のホームページを立ち上げる</li> <li>・「広報ぬまづ」への掲載申請をする</li> <li>・教室を実施する施設を予約する</li> <li>・教室で実施するアクティビティの仮決定</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同系列の小学校（加藤学園暁秀小学校）の低学年生を対象に、アンケートを行う（アクティビティが実際に興味を持ってもらえるかの検証）</li> </ul>
11月下旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沼津市にある学校に問い合わせ、この事業の対象になりそうな生徒に、教室の情報を発信してもらい、参加者を募る。 （また、それが教育委員会に問い合わせ、沼津市にある各学校に宣伝用ポスターを配布してもらう）</li> </ul>
12月上旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者をしめきる</li> <li>・教室の最終確認を行う</li> </ul>

12月～1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月～1月の中旬までの期間で合計4回の教室を実施する (12/29, 1/5, 1/12, 1/19を予定) (参加者にアンケートに答えてもらう)</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート分析・教室の振り返り</li> </ul>

### ◎事業効果

<p>※事業の実施により、期待される効果を記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国にルーツを持つ子供たちが、日本に愛着を持つようになる。</li> <li>・沼津周辺の地区以外からの参加者も増え、地域の活性化に期待できる。</li> <li>・参加した子供たちの両親も新たなコミュニティを増築できる。</li> <li>・日本の文化を広めることができる(参加者の子供を通じて)。</li> </ul>			
成果指標	<p>※事業効果を客観的に評価できるよう、具体的な数値等を用いて成果指標を設定してください。</p> <p>教室参加者数 参加者へのアンケート</p>	指標の 検証方法	<p>※左記指標の検証方法を記載してください。</p> <p>参加者数の増減の分析 アンケート回答の分析</p>

### ◎評価の視点に合致していることの説明 ※評価の視点については、募集の手引きを必ず確認して下さい。

社会的 必要性	<p>※まちの活性化や魅力づくりのために有益であり、不特定多数の利益につながる質の高い事業であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、日本は移民の受け入れを促進しているものの、実際には受け入れるための準備は不足気味であり、外国人労働者やその家族の多くは日本のコミュニティに馴染めることができていない。特に、その子供たちにとって、日本はまさに知らない言語を話す異郷の土地であり、その精神的負荷は計り知れない。そこで、こういった子供たちの集まりを開くことで、子供たちの負荷を軽減し、さらに、居場所になりえると考え。また、子供を持つ外国人の移住先として沼津市が魅力的に映るようになることから、地域の活性化を期待できたり、日本の移民受け入れ対策に貢献することができると考える。</li> </ul>
地域性	<p>※地域課題の解決や地域資源の活用につながり、地域住民を巻き込めるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、沼津市には外国人の子供向けの無料教室が少ない。さらに言えば、日本語教室は幾つか存在するものの、「日本に親しみを持ってもらうこと」を主な目的として据えている場所は非常に数が限られる。そのため、こういった教室作りは、外国人住民の需要をさらに満たすことに繋がると考える。</li> <li>・また、現在沼津市では少子高齢化が進んでいて、若手の働き手が少ない。そこでこういった教室を開き、外国人労働者が増えることで働き手不足の解消にもつながると考える。さらに、その子供が日本に愛着を持つことで、日本にそのまま移住したままにいる可能性が高まり、将来の働き手の確保にもつながる。</li> </ul>
独創性	<p>※申請者ならではの着眼点や個性が見られ、新規性、チャレンジ性があるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こういった教室では、通常、大人が教師の役割を担うことが多いが、この事業では実際に英語教育を外国人教諭から、初等教育から高等教育に至るまで受けてきた学生が教師の役割を担う。</li> <li>・日本に親しみを持ってもらうために、日本の文化であるカルタや折り紙、ゲームやアニメ鑑賞等を実施し、日本語教育よりも、のびのびと楽しんでもらうことを優先する。</li> </ul>

<p>実現性</p>	<p>※資金やスケジュール、法令順守、関係者との調整に問題がなく、予算や効果が適正であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近い間に、各学校（もしくは教育委員会）に生徒募集の協力を呼び掛ける予定であり、機関の協力を得ることで、この事業の実現性がより高まると考える。</li> <li>・教室の施設となり得る場所は既に幾つか調査済みであり、日程が開いていることも確認済みである。また、仮に施設が使えなくなってしまった場合に備えての第二、第三候補先の施設も調査済みである。</li> </ul>
<p>発展性</p>	<p>※事業の波及効果が見込まれ、意欲をもって主体的かつ継続的な活動ができ、資金確保への取り組みも十分か。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室実施が子供たちのためになると判断できた場合、引き続き教室を開催していく。その際はまたマチカツに応募し、足りない資金はクラウドファンディングや学校での募金活動で募る。さらに、教室参加者の持つ外国人コミュニティを通して、教室への参加希望を募り、生徒、生徒数の増加や安定性を見込める。</li> <li>・私達が高等学校を卒業した後もこの事業が継がれていくように、我が学校（加藤学園暁秀高校）にて追加メンバーを下の代からも順次募集していく。</li> </ul>

### ◎次年度以降の活動予定

※ソフト部門（ステップアップ型）新規または2回目の応募で、助成の継続（最大3年まで）を希望する場合は、今後の活動予定と事業継続のための戦略について記載してください（今回の応募が次年度以降の助成を約束するものではありません）。

### ◎実績の評価と改善点（継続事業のみ）

※継続事業については、過去の実績に対する自己評価と実績を踏まえた改善点等について記載してください。